

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	千葉県夷隅郡大原町立大原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	2	3	4	21	30
児童数	84	83	96	85	73	97	17	535	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える児童の育成
 —国語科・算数科において—

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生～6年生 国語
 ・全教科の基礎となる力を培う教科と考えるため

1年生～6年生 算数
 ・学年が進むにつれ個人差が大きくなっていく教科であるため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

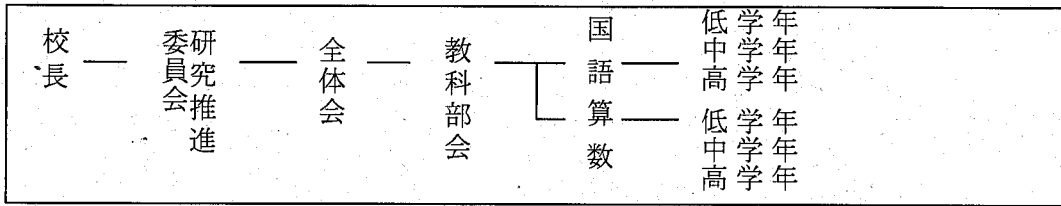
- テーマ
基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える児童の育成
- 研究の見通し
一人一人を大切にしたい、きめ細かな指導をすることにより、基礎・基本や自ら学び、自ら考える力が身に付くだろう。
- 研究の内容・方法
国語科（読むこと）算数科（量と測定・図形・数量関係）の領域を中心に
 - ・児童の実態に応じた単元構成の工夫
 - ・指導過程と評価のあり方
 - ・基礎・基本の定着を図る工夫

平成16年度

- テーマ
基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える児童の育成
- 研究の見通し
一人一人を大切にしたい、きめ細かな指導をすることにより、基礎・基本や自ら学び、自ら考える力が身に付くだろう。
- 研究の内容・方法
国語科（書くこと）・算数科（全領域）を中心に表現する力を身につける手立てを実践を通して明らかにする。
 - ・指導方法、指導体制の工夫（習熟度別少人数指導、地域ボランティアによる支援等）
 - ・指導と評価の一体化の構築

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・国語科においては、1～6年生の「読むこと」の領域を中心に年間指導計画に読書に関する発展的内容を位置付け、実践してきた。また地域のボランティアによる読み聞かせや朝の読書の時間を位置付け読書に対する興味関心を喚起してきた。そのため読書に対する取り組みが意欲的になり、読書好きな児童が、全体の95%を占めるまでになった。保護者の57.8%は、アンケートで「読書の取り組みが以前より積極的になった」と答えている。
- ・算数科においては、指導計画のなかに算数の評価カードを位置付けることにより、児童が自分の学習の進捗を把握することができるとともに、複数の教師や支援ボランティアが関わる指導体制で個に応じた指導をするための手立てになった。また一時間の学習を振り返り感想を記述することで、児童の内面をつかむことができその後の指導に生かすことができた。
- ・少人数指導や支援ボランティアを効果的に取り入れることにより、個に応じた指導が可能になった。特に支援ボランティアは、技能の定着を図る段階でより効果を得ることができた。支援ボランティアに対しては保護者の70.7%が好意的に受け止めている。
- ・単元の内容や学年の発達段階に応じて少人数指導の形態を様々に施行してきた。評価テストによるコース選択では、教師の助言を受けながらコースを選ぶ回数を重ねると児童は自分に合ったコースを選べるようになる。自分で選択したコースであるので熱心に取り組む、達成感を得ることができた。
- ・朝学習や指導過程の初めの5分間に音読やマス計算、あるいは前時の復習などの繰り返し学習を位置付けたことにより、音読や計算の力がついてきた。

2. 今後の課題

- ・算数科の少人数指導において様々な形態を試行してきたが、今後どの学年のどの単元でどのような学習形態がより効果的なのか、体系的に分類・整理していく必要がある。
- ・国語科、算数科の習熟度別指導において児童に応じた学習内容を検討していく必要がある。
- ・担当教諭や支援ボランティアとの共同体制の確立をしていく必要がある。
- ・個の指導に生きる評価方法の工夫をしていく必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・千葉県標準学力検査
調査の目的：学力の向上が図れているか、前年度との比較および県の平均との比較をするため
実施内容：1～2年（国語・算数）3～6年（国語・社会・算数・理科）
時期：平成16年2月19日、20日
- ・児童の意識調査
調査の目的：国語、算数に対する児童の意識を前年度と比較するため
実施内容：好き嫌い、楽しい、読書に関することなど
時期：平成16年1月
- ・保護者へのアンケート
調査の目的：学力向上に対する取り組みを保護者がどう受け取っているか知るため
実施内容：少人数指導について、支援ボランティアについてなど
時期：平成16年1月

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・公開研究会開催	日時	平成15年12月1日(月) 13:30~16:30
	場所	大原町立大原小学校
	対象	大原町内小中学校職員
	内容	授業研究および全体会, 分科会
・夷隅地区学力向上推進協議会における発表		
・教育広報誌「夷隅教育」「千葉教育」において取り組みの発表		
・平成16年度公開研究会を開催予定(日時未定)		
・ホームページに研究成果を公開予定		

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7~12学級
 □ 13~18学級 ■ 19~24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T.Tによる指導
 ■ 一部教科担任制 □ その他
- 【研究教科】 ■ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無